

2026年度 同志社大学大学院 司法研究科

前期日程入学試験問題 法律科目試験

(刑事訴訟法)

第1問 (配点: 30点)

次の(設例)を読んで、「1」記載のK1による逮捕及びその他の捜査の適法性について論じなさい。

(設例)

1 X県警本部警察官K1は、同県内の暴力団Y組幹部甲が大量の覚醒剤を仕入れたもののその処分に困っている旨の確度の高い情報を得て捜査を継続したが、覚醒剤保管場所等の情報その他甲を検挙する証拠も入手できなかった。そこで、K1は、Y組周辺者Aの捜査協力を得て自ら覚醒剤購入客を装い、Aの仲介で甲と連絡を取り、令和6年6月1日午後1時、同県内の飲食店R店内で甲と会った。K1は、甲に「手許に現金100万円がある。それで覚醒剤を至急購入したい。」と申し込み、甲は、「では50グラムを100万円で売る。明日の午前11時にここで現金と引き換えだ。」と答えた。

K1は、捜査経費で現金を用意し、また部下警察官K2らをR店の協力を得て同店の奥に待機させた上で、同月2日午前11時、R店に赴き、現れた甲に対し、現金100万円を渡した。甲は、これを受け取って現金を確かめた後、紙袋1袋をK1に渡した。K1が、その紙袋の中を確認すると、白色結晶が入ったビニール袋1包が入っていたので、これまでの薬物捜査経験からそれが覚醒剤であると判断し、甲に対し、「警察だ。覚醒剤所持で現行犯逮捕する。」と告げた。甲が慌てて逃げ出そうとしたが、K1は、部下警察官とともに、午前11時10分頃、R店内で甲を逮捕した。

2 同逮捕に伴って、K1は、前記白色結晶を差し押さえたが、鑑定の結果、それが覚醒剤約50グラムと判明した。

第2問 (配点: 20点)

検察官が、被疑者に対し被疑事実について不起訴の約束をして同人から同事実に関する自白を得た場合、その自白の証拠能力について説明しなさい。